いのの國にふかれて ⑤

山﨑きよ

80代の女性からの相談です。同年代の女友達がサービス付き高齢者住宅に入所しました。敷金3か月分、冷蔵庫、カーテン、タンス等の家財道具も新調しておよそ70万円。その月の家賃、食費、見守りサービスおよそ15万円も支払って、生活が始まったとたん、ケガをして入院されたそうです。その間、入院治療費と住宅家賃が2重にかかります。在宅で介護する人もいなければ、介護難民になります。解約か継続か……悩んだ結果、高い家賃を払い続けることにしました。

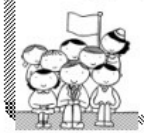
これから高齢化社会になり一人暮らしのお年寄りは年々増えていくことになります。今でも高齢女性の2割が一人暮らしという調査結果です。私も現在52歳、最近ではこのような相談を受けると、他人ごとではないと思うようになりました。年金機構から「あなたの年金は○○円です」という通知がくるとため息が出てきます。正規の教員を6年しかしていない私は、年金額もわずか。もし一人になったとき行くところがあるだろうか。

そう考えると、今の日本は高齢者や弱者に冷たい社会です。「自己責任」という言葉がいつのころからか言われるようになりましたが、過労死しても、非正規になっても、病気になっても、介護難民になっても自己責任です。先ほどの話もケガをした本人の自己責任ということでしょうか。何だか先行きが暗い世の中ですよね。

私は町会議員ですから、いろいろな相談がきます。その中には解決が難しいこともあります。でもできる限り話を聞き、その根本的な原因を追究し、解決しようと努力したいと思っていますが。立場の弱い人の力になれるような議員へ、もっともっと力をつけていきたいです。

新年度スタート

高教組委員長　竹島久美



新しい年度が始まり、執行部も新しいメンバーでスタートしました。昨年は顔ぶれは変わらず書記長と教文が席替えをしましたが、今年度は、女性部が井上千夏さんから酒井賀世さんに、青年部が杉本裕子さんから山口洸明さんにチェンジしました。竹嶋書記長、米満（教文）・書記次長）・谷内（情宣）・青木（障害児学校）・國廣（賃対）・坂本（共闘）の各執行委員は居残り、委員長の竹島も居残りです。引き続きよろしくお願いいたします。副委員長は酒井・青木です。

竹島は、この春、高知農業高校から高知東高校に異動になりました。これまで回ってきた学校とは違ったタイプの学校で、この年になってまた新しいことを覚えないといけないので少し苦労しています。

東高校は現在総合学科五クラスと看護科一クラスです。総合学科では、たくさんの選択科目があり時間割が複雑です。あらかじめ決められた時間割にあわせて持ちゴマを決めていく上に、習熟度も取り入れているので、国語であっても自分のホームの生徒を全員持つことができず、一人が担当する科目数も多くなります。

また、今までの学校と一番違っていると感じるのは、人員の配置の仕方です。一年生は二人担任制、二、三年生は担任・副担任の二人制ですが、朝の読書、朝・帰りのホームルームとロングホーム、総合的な学習の時間もすべて二人で行きます。ホームづくりに力を入れていてそちらに人員をさいているので、○○部長や○○主任などホーム担任をはずれている人たちには分掌の仕事が集中して、これまた大変そうです。

以前はホーム運営がかなり大変で、こういうかたちになってきているものと思われます。状況に応じて変わることも必要ですが、それぞれの学校が生徒の状況に応じて重ねてきた工夫が今の学校のかたちを作っているということを思わずにはいられません。

3・11を忘れない！ こうちアクション　別役美佐

会場となった丸ノ内緑地には、ひときわ大きなのぼり旗が、青空をバックに強烈にその存在を放っています。「原発残って人間残らず」「原発のうてもかまん！」。会場の入り口で配布された「私たちは3・11を忘れない！」「伊方原発は廃炉！」の大きな文字です。あの日から、7回目の3月11日。共同代表の外京ゆりさんは、あきらめずに原発はいらないと、訴えてきたことが、伊方原発3号機の運転差し止めに結びついたことを強く訴えました。続くリレートークでは、あの日以来、東京での生活を止め、「帰ってきいや」という家族の言葉を頼りに、故郷高知に、子どもとともに帰郷した母親。高知へ避難し移住してきた方々の訴えが続きました。「庭に植えていた茗荷を食べたら、おかしな味。鼻血がでたのです。」と語る女性。何としても再稼働反対の思いと一人でも多くの人の参加で運動の継続を訴えました。未来の子どもたちのためにも。集会の最後には、テーマソングとして歌い続けている♪「ふるさとは原発をゆるさない」の歌を練習し、参加者の思いをひとつにして、はりまや橋まで行進を行い、地震発生時には皆で黙祷しました。

♪一安全安心　気にするな　すぐに　死にはせぬ
大丈夫　神話も嘘も聞き飽きた
ふるさとは原発を許さない
私たちは福島を忘れない
（「ふるさとは原発を許さない」から）

主催は、「原発をなくし、自然エネルギーを推進する高知県民連絡会」でした。なお、集会への参加者は、230人でした。

高知県高齢期運動連絡会 総会

5月23日（水）
ソーレ5階視聴覚
記念講演 13:30～15:00
総　会 15:10～16:00

高退協 総会　懇親会

5月26日（土）
総　会　14:30～16:30
高知城ホール3F会議室
懇親会　17:00～19:00
高知城ホール2F

銀の河

西村　雅人

千上がっていた川床に　早春の水が流れ始めた
朝の光をうけて　水面がかがやき
銀の河が　霧の中に浮かび上がる

きらきらと　光の粒子がはじける
銀河鉄道の車窓からも
こんな川面が見えただろうか

（遠くでカラスが啼いた　何かを告げるように）

カムパネルラは
こんな銀色の光の水の中で　見つかったのかな
眠っているような　優しい顔で

ジョバンニの　大切な　たったひとりの友だち
ぼくたち　どこまでも　どこまでも
ずっと一緒に行こうねって　約束したのに

僕と君はそんな約束をしたことはなかったけれど
どんなに遠く離れていても
ずっと　どこかでつながっていると思っていたよ

あの朝　君も
こんな銀色の川面で　見つかったのかな
カムパネルラの笑みを浮かべて

（森の中でハトが歌った　夢にまどろむように）

この川に沿って歩いて行くと
向こう岸にコンクリートの壁があって
機関車のレリーフが彫ってあるんだよ

ここにも　銀河ステーションはあるだろうか
ここにも　イーハトーブは見つかるだろうか

きっとね　僕はそれを探すつもりだよ
耳の奥で　ジョバンニの声が聞こえた

短歌

六度目のミャンマー　　田上悦子

さまざまな色と模様で七十個友は手編みす孤児への帽子
（ミャンマーの孤児院へ、松本和子さん）

友が手で帽子かぶせてあたまより孤児の「孤」が消え愛らしき「児」へ

騒音とほこりに怒るナマタンの登山道今やバイクが占領

圧迫骨折　　山本晶子

二軒目の整形外科にて判明す第十二胸椎圧迫骨折と
骨密度若き人らの五十パーセント「どの骨が折れても不思議はない」と
（医師の言）
またしても骨のつぶれて骨の中に詰め物をする手術となりぬ

戦死せる教え子よ　　叶岡淑子

「戦死せる教え子よ」（2月17日、竹本源治詩の絹島博直氏による作曲披露の会）
の詩は今ここに旋律となり満場を打つ
きなくさき「壊憲」はらむ今の世に伝えん思い曲に込るる
あやまちは「繰り返さぬぞ絶対に！」未来へバトンは引き継がれたり